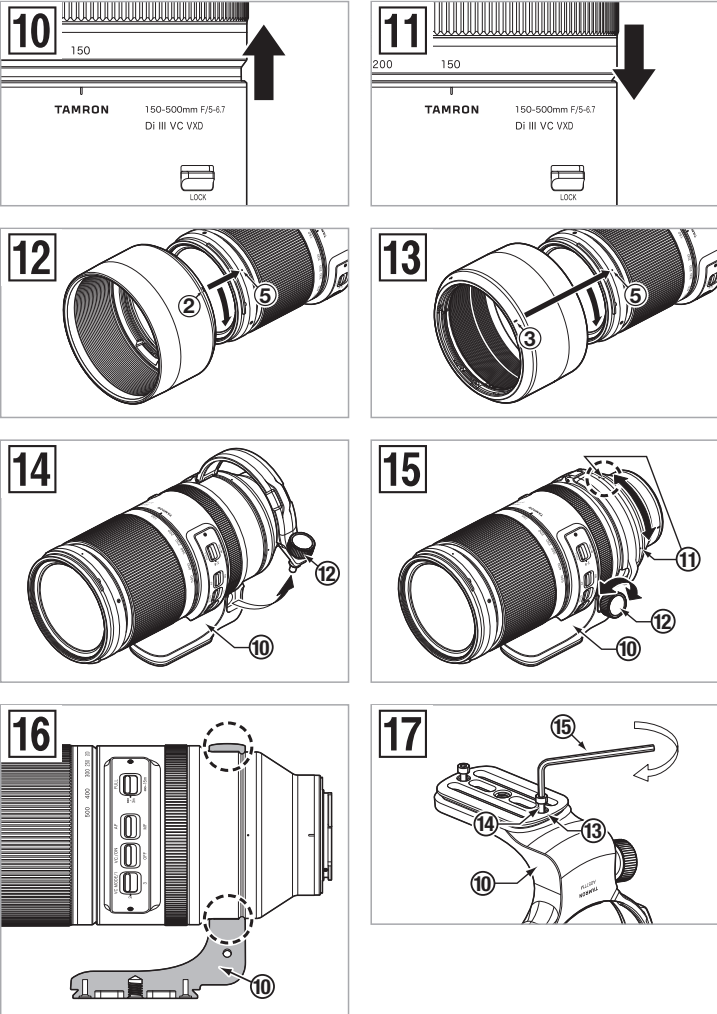
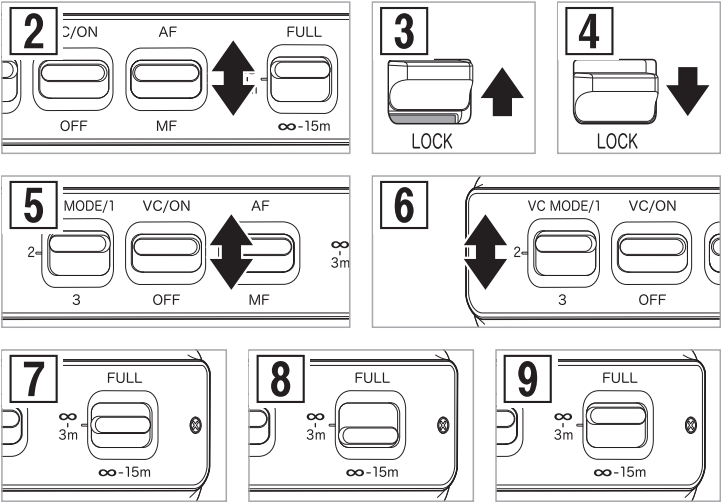
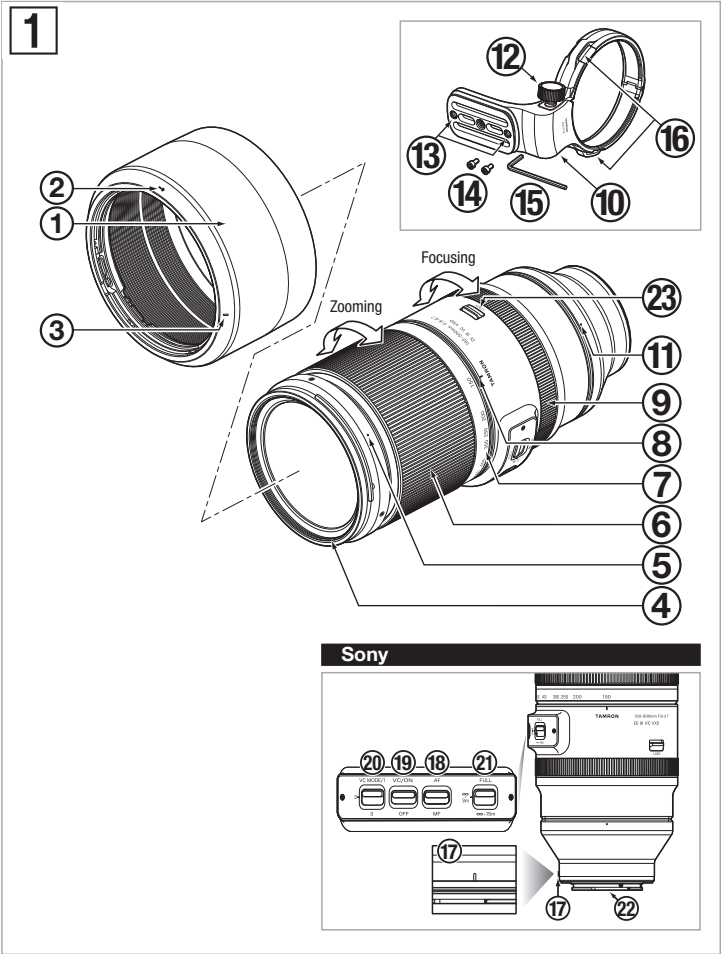


150-500mm F/5-6.7 Di III VC VXD

(for Sony E)



CE * The **CE** Marking is a directive conformity mark of the European Community (EC).
* Das **CE**-Zeichen entspricht der EC Norm.
* La marquage **CE** est un marquage de conformité à la directive CEE (CE).
* La marca **CE** es marca de conformidad según directiva de la Comunidad Europea (CE).
* Il marchio **CE** attesta la conformità alla direttiva della Comunità Europea (CEE).
* **CE** 标志表示符合欧洲共同体(CE)指标

CE The EEC Conformity Report applies to the Council Directive 2014/30/EU, 2011/65/EU and is used by Tamron Co., Ltd., manufacturer of this product.

日本語

タムロンレンズをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。また、このレンズを取りつけてご使用になるカメラの取扱説明書も、併せてお読みください。

お読みになった後は本取扱説明書を大切に保管してください。

本レンズをお使い頂く上での安全上のご注意は、同梱されております用紙「タムロンレンズ安全上のご注意」に詳しく記載されておりますので、そちらも必ずお読みください。

- 不都合が生じる恐れがある注意事項が書かれています。
- 基本操作に加えて知っていただきたい事項が書かれています。

各部の名称 (図 1 参照)	
① レンズフード	② フード取付指標
③ フード固定指標	④ フィルター取付リング
⑤ フード着脱指標	⑥ ズームリング
⑦ 焦点距離目盛	⑧ 焦点距離指標
⑨ フォーカスリング	⑩ 三脚座
⑪ 三脚座指標	⑫ 三脚座固定ネジ
⑬ セーフティロックネジ取り付け用ネジ穴	⑭ セーフティロックネジ (2本)
⑮ 六角レンチ	⑯ ストラップホール
⑰ レンズ取付指標	⑱ AF・MF切り替えスイッチ
⑲ VCスイッチ	⑳ VCモード切り替えスイッチ
㉑ フォーカスリミッタースイッチ	㉒ 信号接点
㉓ ワイド側ズームロックスイッチ	

- ご使用になる前に本製品に貼られたテープはあらかじめ剥がしてください。

主な仕様	
モデル	A057
焦点距離	150 - 500 mm
明るさ	F/5 - 6.7
画角 (対角)	16°25' - 4°57'
レンズ構成	16群25枚
最短撮影距離 (MOD)	0.6 m (Wide) / 1.8 m (Tele)
最大撮影倍率	1:3.1 (Wide MOD) / 1:3.7 (Tele MOD)
フィルター径	φ 82 mm
長さ	209.6 mm
最大径	φ 93 mm
質量	1,725 g (三脚座除く) / 三脚座 155g
レンズフード	HA057

- 長さ：レンズ先端からマウント面までの距離。
- 仕様・外観は、お断りなく変更する場合があります。

カメラへの取り付け・取り外し

レンズの後キャップを外し、レンズ取付指標⑰とカメラ側のマウント指標を合わせてはめ込みます。

レンズを時計回りにロックがかかるまで回します。

取り外すときは、カメラ側のレンズ取り外しボタンを押しながら、取り付け時とは逆回りに回して取り外します。

- カメラの電源OFFの状態で行って、取り外しを行ってください。

- 詳しくはご使用カメラの取扱説明書を併せてご覧ください。

フォーカスモードの切り替え (図 1, 2 参照)

フォーカスモードの切り替えはカメラ側の設定とAF・MF切り替えスイッチ⑱で行います。

- AF・MFの切り替え (図1, 2)
- オートフォーカス (AF) で撮影する場合は、カメラ側の設定とAF・MF切り替えスイッチ⑱の両方をAFにします。(図2)
- マニュアルフォーカス (MF) で撮影する場合は、カメラ側の設定とAF・MF切り替えスイッチ⑱の両方又はどちらか片方をMFにします。MF時はフォーカスリング⑨を回してピントを合わせてください。(図1, 2)

- AF撮影時、被写体によってはAFが合いにくい場合があります。
- AF/MFコントロールボタンを装備したカメラをお使いの場合、AF動作時にAF/MFコントロールボタンを押すと一時的にMFへ切り替えることができます。MF動作時でレンズの設定がAF、カメラの設定がMFの場合、AF/MFコントロールボタンを押すと一時的にAFへ切り替えることができます。

- 詳しくはご使用カメラの取扱説明書を併せてご覧ください。

手ブレ補正機構について (図 1, 5, 6 参照)

手ブレを補正したいときはVC (Vibration Compensation) スイッチ⑲をONにしてください。(図5)

- モードの切り替え (図6)
- VCモード切り替えスイッチ⑳で切り替えることができます。
- MODE 1 通常の手ブレ補正モードです。
- MODE 2 流し撮り専用のモードです。
- MODE 3 フレーミングを重視したモードです。素早く動く被写体のフレーミングがしやすくなります。
- ※ MODE 1 と MODE 3 は流し撮りには対応していません。

- 手ブレ補正は以下のような状況下で有効です
- 薄暗い場所
- ストロボ撮影が禁止されている場所
- 三脚が使用できない場所

- 次のような状況では、十分に補正されない場合があります
- 大きくゆれ動く乗り物から撮影するとき
- カメラを大きく動かしながらの撮影
- 三脚を使用して撮影するとき
- バルブ (長時間露出) 撮影の際には、VCスイッチ⑲をOFFにしてください。手ブレ補正が誤作動を起こす場合があります。

- MODE 1 又はMODE 2設定時、手ブレ補正機構の特性上、シャッターボタンを半押しした直後、ファインダー像がゆれることがあります。故障ではありません。
- MODE 3設定時、手ブレ補正機構の特性上VCスイッチ⑲がONの状態ではカメラの電源をONにした場合、シャッターボタンに触れていなくてもファインダー像がゆれることがあります。故障ではありません。
- 三脚を使用するなど、手持ち以外で固定して撮影するときは、VCスイッチ⑲をOFFにしてください。
- カメラの電源をOFFにした状態又はカメラから取り外した状態でレンズを振るとカタカタと音がすることがありますが、故障ではありません。

- 詳しくはご使用カメラの取扱説明書を併せてご覧ください。

フォーカスリミッターの使い方 (図 1, 7 - 9 参照)

オートフォーカス撮影時には、フォーカスリミッタースイッチ㉑の切り替えによって、よりスピーディーなピント合わせが可能になります。

- 無限遠～3mの被写体にオートフォーカス範囲を制限したいとき (図7)
- フォーカスリミッタースイッチ㉑を「∞ - 3m」に切り替えます。
- 無限遠～15mの被写体にオートフォーカス範囲を制限したいとき (図8)
- フォーカスリミッタースイッチ㉑を「∞ - 15m」に切り替えます。
- フォーカスリミッターを使用しないとき (図9)
- フォーカスリミッタースイッチ㉑を「FULL」に切り替えます。

ズーミング (図 1 参照)

ズームリング⑥を回して、希望の焦点距離 (ズームの位置) に合わせます。

ワイド側ズームロック機構 (図 1, 3, 4 参照)

ズームリング⑥を焦点距離150mmの位置で回転しないように固定することができます。

- ズームロック (図3)
- 焦点距離目盛⑦の150mmを、焦点距離指標⑧に合わせます。
- ワイド側ズームロックスイッチ㉓をズームリング側に切り替えます。
- ズームロック解除 (図4)
- ワイド側ズームロックスイッチ㉓をカメラ側に切り替えます。

- ズーミングするときは、ズームロックを解除してズームリング⑥を回してください。

フレックスズームロック機構 (図 1, 10, 11 参照)

任意の位置で不用意にレンズがズーミングしないことを目的とした機構です。

ズームリング⑥を希望のズーム位置まで回転させて、位置が決まったあとロックをかけてください。

- ズームロック (図10)
- ズームリング⑥を被写体側にずらし、白い指標が見えるまでずらしてください。
- ズームロック解除 (図11)
- ズームリング⑥をカメラ側にずらし、

- 持ち運びのときなどは自重落下防止のワイド側ズームロックをご使用ください。(図1, 3参照)
- ズーミングするときは、フレックスズームロックを解除してズームリング⑥を回してください。
- フレックスズームロック切り替えの際、指を挟まないようにご注意ください。
- 長期間使用しない場合は、フレックスズームロックを解除して保管ください。

レンズフードについて (図 1, 12, 13 参照)

バヨネット式レンズフード①が標準装備されています。

描写に悪影響を及ぼす画角外の余分な光線をカットするため、正しく装着して撮影することをお勧めいたします。

- 使用時 (図12)
- レンズ側のフード着脱指標⑤にフード側のフード取付指標②を合わせます。
- フード着脱指標⑤にフード固定指標③が合うまでフード①を矢印の方向に回します。
- 収納時 (図13)
- フード①を逆向きに取り付けることで、収納することができます。
- レンズ側のフード着脱指標⑤にフード側のフード固定指標③を合わせます。
- フード着脱指標⑤にフード取付指標②が合うまでフード①を矢印の方向に回します。
- フード①が正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じますのでご注意ください。

三脚座 (図 1, 14 - 16 参照)

A057には三脚座⑩が装備されています。三脚を使用する際は、三脚座⑩でレンズを三脚にしっかりと固定してください。

- 三脚座の取り付け・取り外し (図14, 16)
- 三脚座固定ネジ⑫を回してゆるめ、ネジがついている部分を持ち上げることで着脱できます。
- 装着時はレンズの溝に、三脚座⑩の内径の凸部がはめ込まれていることを確認の上、必ず三脚座固定ネジ⑫を締めて固定してください。
- 装着時、レンズの溝に三脚座⑩の内径の凸部がはめ込まれていないとレンズの破損や脱落の恐れがあります。
- カメラの縦横の位置を変える (図15)
- カメラの縦横位置を変えるときは、三脚座固定ネジ⑫をゆるめることでレンズを回すことができます。
- レンズ側の三脚座指標①と三脚座⑩の指標を合わせてください。
- 撮影位置を決めたら必ず三脚座固定ネジ⑫を締めて固定してください。

■ストラップホール（図①）

落下防止用にストラップを通すことができます。

三脚座⑩のストラップホール⑥を使用する際は、三脚座固定ネジ②がしっかり締まっていることを確認してからストラップをしっかりと取り付けてご使用ください。レンズから三脚座⑩又はストラップが外れて、レンズが落下する恐れがありますのでご注意ください。

- A057の三脚座⑩はアルカスイス規格の雲台に取り付けることができます。

■セーフティーロックネジ（三脚座の付属品）（図 ①, ⑱ 参照）

アルカスイス互換の雲台・クランプをご使用いただいているお客様に、雲台のタイプに合わせ取り付けをお勧めします。

■セーフティーロックネジの使用方法について（図⑱）

セーフティーロックネジ⑭は、三脚座⑩をアルカスイス互換の雲台・クランプ等に取り付けて使用する際に、雲台からの脱落を防ぐ効果があります。

図のように六角レンチ⑮を用いて、セーフティーロックネジ⑭をセーフティーロックネジ取り付け用ネジ穴⑬2ヶ所に取り付けてご使用ください。

- セーフティーロックネジ⑭取り付け後は、脱落防止のためネジの頭部が三脚座⑩の底面から飛び出した状態となります。そのため、アルカスイス互換以外の雲台・クランプをご使用の場合は、取り付けの必要はございません。

■ご使用上のご注意

- 最短撮影距離を短くするために、インターナルフォーカス方式を採用しています。無限遠に満たない撮影距離で撮影した場合、他のフォーカス方式のレンズと比較して、画角が広がる場合があります。
- フードや鏡筒によりフラッシュ光が遮られる場合がございます。事前に試写することをお勧めいたします。
- カメラの表示システムの違いにより、開放F値、及び最小F値が仕様と異なった値で表示される場合がありますが、異常ではありません。
- レンズの信号接点には、指を触れないようにしてください。誤作動の原因になります。
- 温度が急激に変化すると結露が生じ、故障の原因となります。
- 前玉は防汚コートを採用しております。レンズ面についたゴミをブロアー等で除去した後、乾拭きを行ってください。
- レンズの清掃にベンジンやシンナーなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。
- レンズは、風通しがよく、ゴミやホコリの少ない場所に保管してください。
- レンズの清掃や保管方法、カメラとの互換性などのサポート情報はこちらをご覧ください。<https://www.tamron.jp/support/>

TAMRON

日本語

タムロンレンズ安全上のご注意

安全のため、ご使用前には必ずこの「タムロンレンズ安全上のご注意」と取扱説明書をお読みください。

お読みになった後は、いつでも必要な時に取り出せるように、保管してください。
この説明書では、危険をその内容、程度に応じ、次の2種類に分けています。



警告

この指示に従わないで誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

- レンズやレンズをつけたカメラを太陽や強い光源に向けてのぞいたり、撮影したりしないでください。失明やレンズ、カメラの故障、火災の原因となります。
- 分解したり、修理や改造をしないでください。
レンズやカメラの損傷の原因になります。
- レンズは乳幼児の手の届くところへは置かないでください。
落ちたり、倒れたりして怪我をする恐れがあります。



注意

この指示に従わないで誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性があります。または物的損害が発生する可能性があります。

- 日光が直接あたるところや、自動車の中など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。内部の部品へ影響を与え、火災の危険となる場合があります。
- 使用しないときは、レンズキャップを必ず付けてください。
- レンズをカメラに装着する場合は、レンズとカメラを正しくセットし、きちんとロックされたことを確認してください。
正しく装着されていない場合、レンズが外れなくなる、外れて落下する等、故障やけがの原因になります。
- レンズは撮影以外の用途には使用しないでください。
- 三脚にレンズを取り付けたまま移動しないでください。